

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成19年 12月 10日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 40分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームふれあい (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者 ・ 主任</u> 氏名 <u>林田 貴久 ・ 松脇 弘子</u> ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月16日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第46703393号		
法人名	社会福祉法人 恵仁会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	鹿児島県鹿屋市1805番地 (電話) 0994-40-2588		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年1月26日

【情報提供票より】 (平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	合金メッキ鋼板葺平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	8,100 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低	64歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青人会 池田病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者の思いや意向を大切に、一人ひとりに応じた細やかな支援や配慮がなされている。職員は入居者のできることを見出しながら日常的に「あなたの立場に立ち、あなたを感じ、あなたを理解する」という、ホームの理念の実践に取り組んでいる。音楽療法や理学療法を活用し、歌などの楽しみごとや転倒防止などの下肢筋力の維持向上を図る取り組みが行われている。また、職員は入居者、家族の意向を尊重し、医療機関、家族と細やかに連携して、終末期の支援も行っている。地域の中で認知症に関する中核的な役割を担っており、職員の向上心も高く、働きながら必要な知識や技術を学んでいる。常に、地域や行政、他のグループホームなどとの幅広い連携を図っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価を活かし、職員の情報の共有を確実にを行う取り組みや毎食後の口腔ケアの実施など職員と話し合い、改善に向けて即実践している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、項目の狙いの意味を思考しながら、ミーティングなどを利用して一項目ずつ職員で話し合いながら自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの現状や取り組みなどの報告を行い、地域の方を含めた防災訓練などそこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回の行事で家族が集う時や家族の訪問時に、家族が話しやすい雰囲気を作ることが意向を聴取している。また、状況に応じ個別の面談を行い、意向や意見、相談など行っている。出された意見は、職員で話し合い意見が反映されるように取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体である介護老人福祉施設や通所介護を通じて地域住民との交流や自治会への加入、運動会などの地域の行事へ参加している。近隣の学校とは生徒と一緒に折り紙やカレー作りを行うなどして、認知症についての理解をしてもらい、地元の人々とも積極的に交流している。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村朋美 / 調査員 福留 昭

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い作り上げた理念であり、地域密着型サービスとして、地域との和、つながりを大切にしたい理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念に基づき、日々入居者の思いの把握に努めながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体である介護老人福祉施設や通所介護での地域住民との交流や自治会の加入、運動会などの地域の行事への参加をしている。また、近隣の学校とは一緒に折り紙やカレー作りを行うなど地元の人々と積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、項目の狙いの意味を追求し、ミーティングなどを利用して一項目ずつ職員で話し合いながら自己評価を行っている。評価を活かし、できることを即実践し具体的な改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状や取り組みなどの報告を行い、地域の方を含めた防災訓練などそこでの意見をサービス向上に活かしている。		

グループホームふれあい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市町村担当者とホームの現状などの報告や様々な相談や話し合いを行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の近況や健康状態など家族の来訪時や電話連絡などで細かい報告を行っている。ホーム便りも年3・4回定期的に発行し写真等にてホームでの様子を知らせている。金銭管理は入居者や家族の状況に合わせて随時報告確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の行事に家族が集う時や家族の訪問時などに、家族が話しやすい雰囲気心がけ意向を聴取している。また、状況に応じ個別の面談を行い、出された意見は、職員で話し合い意見が反映されるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動はしていないが、入居者や職員の状況に応じて充分検討してから異動を行う場合もある。異動時や離職・採用時は、入居者の状態をみながら、時期や引継ぎなど考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一度の内部研修を行っている。外部研修も交代しながら順番で研修を受け報告も行われている。資格習得に向けた学びや情報の提供も行われており、働きながら必要な知識や技術が学べるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区認知症グループホーム協議会の活動の中で地域のグループホームも共に質の向上を図るため他のグループホームとの研修・交流・相談・連携がなされている。		

グループホームふれあい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族から心身の状況を把握し、事前にホーム見学や遊びに来てもらうなどして、ホームの雰囲気に早く馴染めるように家族等と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の作業内容をたたえたりしながら得意とする力を引き出し、共に本人から学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の言葉や行動などから、ゆったりとその人らしく生活してもらうために思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を反映させ、ミーティングにて話し合いを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行いながら、入居者の状況を確認し、期間が終了する前に見直しを行っている。状況の変化に応じて随時、本人、家族、職員と話し合い介護計画を見直している。		

グループホームふれあい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かした24時間医療連携の充実が図られている。理学療法・音楽療法の活用支援、通院介助など入居者、家族状況に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する入居前からのかかりつけ医や協力病院などに通院介助など行い、状況に応じては協力病院などの医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明している。入居者の状況に応じて段階に応じた対応を行うために本人家族の意向を把握しながら話し合いを繰り返し行い、細かい具体的な対応を決め全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングを利用して、入居者一人ひとりの自尊心やプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮がなされているかを話し合いながら職員の意識向上を図っている。記録などの個人情報の取り扱いにも留意がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの希望や状況に合わせながら、無理強いすることなく柔軟な対応をしている。		

グループホームふれあい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れた献立や、入居者の状況に応じて、食材の準備や盛り付け、配膳片付けなど職員と共に行い、入居者と職員が同じテーブルで会話しながらなごやかに食事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を固定することなく、本人の希望や状況に応じて毎日や隔日などゆっくり入浴できるようにきめ細かい支援をしている。入浴したくない入居者には、理由の把握に努め、柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや干し柿や漬物づくり、農作業、歌など本人が得意とする力を発揮できる場面づくりや外出などの気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物、隣接する母体施設、通所介護への訪問、畑、ドライブ、地域の行事など入居者の希望や状態に応じて戸外に出掛けられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や食堂など鍵は掛けておらず、職員は外出したい入居者の雰囲気や察知し、声掛けや入居者に同行するなど安全に配慮し自由に入居者に入居できるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や消火器の使用法などの指導を消防署から受けて、避難訓練を実施している。水害などの災害や備蓄などは隣接する母体施設などと協力体制がある。		

グループホームふれあい

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは留意されており、個別に食事量の記録がなされ、水分摂取量はおおまかに把握されている。体重増減や入居者の状態観察を日常的に行い、必要に応じて、水分量のチェックや食材の工夫を行うなど柔軟な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節の草花などで季節が感じられ、明るく、椅子や足置など入居者の状況や季節に応じ工夫されており、家庭的な温かみ、生活感があり居心地よく過ごせる配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居時に本人家族と相談しながら、仏壇、タンス、椅子、家族の写真などの使い慣れたものや好みのもが持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせる配慮がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。